

「江戸中期の小袖の模様と色彩 その1」

—共立女子大学所蔵の小袖模様雛形本を中心として—

共立女大家政 河村 まち子 ○吉中 淑江

目的 小袖模様雛形本は江戸時代に出版され、小袖雛形、衣装雛形、或いは雛形と呼ばれる小袖模様の雛形である。共立女子大学では、寛文7年（1667）から、寛政12年（1800）の出版のものまでの59冊を所蔵している。その中で今回は、江戸中期（宝永—天明）に出版されたものを中心に分類、考察し江戸中期模様の種類と色彩の傾向を考察することを目的とした。

方法 江戸中期出版の小袖模様雛形本の中から、模様と地色が記載されているものを使用し、模様の種類と地色を分類し検討した。

結果 文様の傾向としては植物模様と自然模様が大部分で植物模様では松、竹、梅、柳が多く、自然模様では水が多く見られた。色彩については、緑がかつた海松茶系、白茶等の茶系統と、花色、千草等の青系統が多く見られた。

今後は、中期の模様と色について他の資料を加えて検討し更に江戸時代前期、後期の模様と色彩についても詳しく調べ、比較検討することによって、中期の模様と色彩の特徴を明確化する予定である。